

地域や家庭での取り組み

地域や家庭でも次のような点に気をつけ、日ごろから子どもたちが運動したり、楽しんだりする機会を増やしましょう。

①動くことや歩くことの大切さを教える

地域では、子どもたちに地域での運動機会を数多く設け、家庭ではそうした機会への参加を促すことが大切です。また、家庭では日常的な運動や生活習慣を見直すとともに、体を使ったお手伝いや生活の中で歩くことの大切さについてもあらためて考えさせるよう、促していく必要があります。

③就学前から運動に親しむ機会を増やす

保育園や幼稚園などでは、就学前の段階から「運動あそび」などで先進的な取り組みをしているところもあり、運動に抵抗を感じない子どもを育てることで、運動面だけでなく小学校入学後の生活や学習態度の面からも効果が期待されています。小・中学校の一層の連携とともに、地域や家庭でも運動機会を増やしなが、幼稚園等就学前から一貫的な取り組みを考えていくことが大切です。

②健康な身体や体力の大切さを理解させ、日常生活の中に生かす

調査結果から運動やスポーツに対する児童生徒の意識が変化してきていると思われます。運動に対する男子と女子の意識の差は、得意・不得意といった技能面だけでなく、教科の必要感にも表れています。子どもたちに豊かな日常生活を営む上で、健康な身体や体力の大切さを理解させるとともに、学んだことを日常生活の中に生かしていく姿勢を培っていく環境づくりが家庭でも必要です。



学校では

- ① 調査結果の概要を保護者に報告し、学校全体で体力向上のための方法を検討して取り組みます。
- ② 小学校では同学年または隣接する学年の教員同士で、中学校では担当する教員同士で、体力向上に向けた取り組みや授業における指導方法の工夫・改善などについて検討します。
- ③ 運動実施時間が少ない児童・生徒の実態を把握し、改善に取り組みます。

なお、調査結果の詳細は、ホームページ、または市教育委員会窓口にてご覧いただけます。

図 学校教育指導室
(TEL 62・0133 FAX 62・5721)

質問紙調査から見た本市の子どもの運動意識や習慣

質問紙調査を分析すると次のような傾向が見られます。

運動の頻度

小・中学生とも、女子の運動離れが進む

「ほとんど毎日運動する(体育の授業以外)」と答えた割合

小学生(男子) 57.0% 小学生(女子) 29.8%
中学生(男子) 80.6% 中学生(女子) 54.7%

【全国・県との比較】小学生の男子は全国や長野県より低かった。女子は全国より低く、長野県よりわずかに低かった。中学生の男子は全国や長野県より低かった。女子は全国より低い、長野県よりわずかに高かった。

得意不得意

小学校就学前にも苦手意識が

小学生は就学前、中学生は小学校高学年時の運動やスポーツが得意、苦手だったか質問

「得意だった」と答えた割合

小学生(男子) 46.2% 小学生(女子) 38.8%
中学生(男子) 35.6% 中学生(女子) 23.0%

「苦手だった」と答えた割合

小学生(男子) 9.1% 小学生(女子) 9.3%
中学生(男子) 9.6% 中学生(女子) 18.5%

【全国・県との比較】「得意だった」の回答は、小中学生の男女ともに全国や長野県より低かった。「不得意だった」の回答は小学生では男子は、全国とほとんど差が見られなかったが、長野県より高かった。女子は全国とほとんど差が見られなかったが、長野県よりわずかに高かった。中学生では男子は全国とほとんど差がなかったが、長野県より高かった。女子は全国や長野県より高かった。

運動への関心

実技面以外に教科の必要性の意識にも男女の差

「体育は自分にとって大切なものである。」の設問に「そう思う」と答えた割合

小学生(男子) 61.1% 小学生(女子) 43.1%
中学生(男子) 46.4% 中学生(女子) 28.9%

【全国・県との比較】小学生の男子は全国や長野県より低かった。女子は全国とほとんど差がなかったが、長野県よりわずかに低かった。中学生の男子は全国とほとんど差が見られなかったが、長野県よりわずかに低かった。女子は全国より低く、長野県よりわずかに低かった。

運動への動機づけ

きっかけ作りは、興味がある、または友人と楽しめる種目から

今後、運動やスポーツする場合のきっかけについて聞いた設問(複数回答)で割合が高い回答

「自分が好きな種目・できそうな種目があったら」

小学生(男子) 64.8% 小学生(女子) 70.3%
中学生(男子) 75.2% 中学生(女子) 85.7%

「友達と一緒にできたら」

小学生(男子) 54.3% 小学生(女子) 64.5%
中学生(男子) 45.2% 中学生(女子) 57.6%

【全国・県との比較】傾向については全国や長野県と同じであった。比較的割合が低い回答では、「先生や家族から勧められたら」や「自分自身の健康が不安になったら」、「授業でいてないに教えてもらえたら」などがあつた。

調査結果の活用

市教育委員会と各学校は、調査を通して把握した児童・生徒の体力や運動能力、運動習慣等の状況を今後の教育施策や教育活動に役立てていきます。

また、日々の教科指導や児童・生徒の運動習慣等を改善するために、次のような指導・助言や支援を行います。

教育委員会では

- ① 児童・生徒の体力向上を図るために「体力向上検討委員会」を組織します。
- ② 市校長会や市教育会、学校園関係者、地域関係者などとも実態を共有しながら、体力や運動能力の向上、運動習慣の改善のために具体的に連携していきます。
- ③ 調査結果の概要を公表し、機会をとらえて家庭や地域に協力を依頼していきます。